

再発見。あなたの知らない上市町。

{ RE:DISCOVER KAMIICHI

2025
SPRING

VOL.
5

日本の文化を支える富山県上市町



TAKE
FREE

剣岳のふもとのまち

上市町

{ RE:DISCOVER KAMICHI

上市町に住んでいる人にも、町外・県外の人にも、
もっと上市を知ってほしい。そんな冊子です。

VOL.5 日本の文化を支える富山県上市町

REPORT 1

国内初開催！上市町で再発見した自然の魅力 1
フェールラーベン・トレッキング・ジャパン in 上市町

REPORT 2

無形文化財×古典落語が織りなす笑いのひととき 3
大岩山日石寺×城西国際大学「語りつく落語会 in 上市」

REPORT 3

人にやさしい会社にはユニークな歴史があった。..... 6
上市町から日本全国・そして世界へ…池田模範堂

「フェールラーベン・トレッキング・ジャパン」 で再発見した自然の魅力



2 005年のスウェーデン開催を皮切りに、20年以上続くトレイルイベント「フェールラーベン・クラシック」の日本版が、国内で初めて上市町で開催されました。

「第1回 Fallraven Trekking Japan(フェールラーベン・トレッキング・ジャパン)」が2024年10月、少し肌寒さを感じる曇り空の下、開催。関係者ら約30名が種地区の白萩南部公民館に集まり、2グループに分かれて元気にスタートしました。このイベントは、世界的な人気を誇るアウトドアブランド「フェールラーベン」が企画するトレッキングイベントであり、日本では初の試み。国内のあらゆる候補の中から上市町が開催地として選ばれたのです！

ピークを目指さない
「楽しむ」トレッキング

フェールラーベンは、「より多くの人々にアウトドアで良い時間を過ごしてもらう」というブランド理念を実現するため、20年前から本国スウェーデンを中心に「フェールラーベン・クラシック」というトレッキングイベントを開催しています。参加者たちはトレッキングで必要な荷物を背負いながら、自分たちでテントを設営し、料理をし、自分のペースでなんと110km(！)もの行程を歩き続けます。日本独自開催となる今回のイベント。「ピークを目指さないトレッ

キングの素晴らしいと身近にある自然に誰でもいつでもアプローチできることを知ってもらいたい」と、ブランドを運営するワイエスインターナショナルの上田雄一朗代表が候補地を模索していた中で、上市町や、上市町観光協会との長年にわたる信頼関係によって実現したとのこと。

今回のトレッキングルートは、白萩南部公民館↓種集落↓ハゲ山第2登山口↓城ヶ平山頂上↓浅生登山口↓「おかみこどもの雨と雪」花の家↓県道67号線經由西種・東種↓白山神社御神木↓白萩南部公民館。約10km、約6時間の行程が組まれました。



早速、ハゲ山の第2登山口から、城ヶ平山山頂を目指します。前日の雨で、足元のぬかるみも予想されたため、参加者はストックを手によりずつ慎重に歩きます。道中は「種地区の生き字引」こと広田弘義公民館長(御年83歳)がガイド役となり、町や植物、石像などに関する歴史や豆知識をたくさん聞かせてくれました。

パーティーには、ブランドの公式アンバサダーを務める「キャンプ芸人」の阿諏訪泰義さんも参加(YouTubeでもこの日の様子をアップしてくれています！)。互いに鼓舞しつつ、共に歩を進めていきました。



新鮮な景色と空気の中で
食べるランチは絶品

草木をかき分け、ぬかるむ山道に足を取られながらもなんとか山頂に到着。目の前に広がる富山平野のきれいな景色に疲れも吹き飛び、しばしの休憩タイムを満喫しました。雨がチラつく日もあったため、剣岳を望むことはできませんでしたが、参加者にとっては新鮮な景色と空気が癒しの時間となりました。昼食は「フェールラーベン・クラシック」で実際に使用されている「お湯を入れて待つだけ」のドライフード(携帯食)が全員に配られました。カレーやパスタ、

ポークライスなどいろいろな種類があり、これがちょっとしたレストランよりも美味しくてびっくり！下山のことも忘れて一気に完食。ボリュームもあり、トレッキングやアウトドアには本当におすすめです。

ドローンでの記念撮影などを楽しんだ後、登りとは異なるルートから公民館を目指して下山開始。登りほどのキツさは感じないものの、スピードが出てしまう分、滑って転んでという場面もちらほら。危険な場所は枝木を掴みながら、ストックを駆使して慎重にゴールを目指しました。



登ったり下ったり寄り道したり
「やりきった」感動のゴール

城ヶ平山から下山し、ようやく平地に辿り着くと、映画「おかみこどもの雨と雪」の主人公・「花」の家が見えてきました。映画そのままの光景が広がる古民家は、明治20年に建て



られた木造3階建ての建物。映画で感じた家族愛やノスタルジックな雰囲気が伝わってくる癒しの空間です。顔はめパネルで記念写真を撮ったり、各々の時間を楽しんだりした後、公民館ヘラストスパート。「大蛇が住む」と言われる伝説の池や、「外周8mの立山スギ」を拝みながら、無事帰還を果たしました。

朝9時にスタートして、公民館に戻ってきたのが15時30分。約10kmの行程を、無事全員ケガなく歩き切りました。ゴールの白萩南部公民館で待っていたのは、キッチンカー「謳うてっばん」のグルテンフリーのお好み焼き。「この味を目当てに頑張った」という参加者の声も納得。お昼は食べたはずでしたが、絶品のお好み焼きに舌鼓を打ったのでした。

食後は「ふるさと親自然公園」に移動し、テントを立てて、「夜の部」のスタートです。野外炊飯やキャンプ泊で一夜を明かし、上市町の自然を思う存分体感した1日となりました。

ワイエスインターナショナルの浅木孝弘営業本部長は、「観光協会の皆さん、公民館長の広



田さんをはじめ、上市町の皆さんの熱量とサポートのおかげで、大成功で終えることができました。本国(スウェーデン)とはまた違った、日本人に合うやり方でアウトドアを楽しんでもらえるように、2回目以降も楽しいイベントを考えていきたいと思っています」とイベントを振り返りました。

朝から夕方まで自然の中で過ごし、自分の足で進み、登ったり下ったり。そしてその日会った仲間と一緒にゴールを目指す。町の魅力を再発見しつつ、これまで得たことのない喜びを感じた、とても貴重な1日となりました。そして後日、第2回も上市町で開催されることが正式に決定。全国の多くのトレッキング愛好家たちに、上市町の自然をめいっぱい堪能してもらえらる特別な機会になることでしょう。

大岩山日石寺 × 城西国際大学 「語りつぐ落語会 in 上市」

パワーあふれる神秘空間で、
いっしょに作り上げた笑いのひととき。



初めての落語体験で その楽しみ方を解説

前座を務めたのは、お隣の長野県出身の桃月庵ぼんぼりさ

落語会には町立陽南小学校の5・6年生約20名のほか、地域の老若男女、マスメディアなど、多くの方が集結しました。
重要文化財の磨崖仏と無形文化財の古典落語との初の組み合わせ。どんな空間で、どんな斬（はなし）が語られたのでしょうか。さあ、三味線や太鼓の音も軽快な、出囃子（でばやし）が聞こえてきましたよ。

ふたつの重要文化財の かけ合わせで生まれるもの

2024年11月13日、日石寺本堂で、地域の文化財の価値を再発見し、メディアの力でより魅力的に伝えようと、城西国際大学のメディア学部メディア情報学科の塾（もたい）佳代子准教授と学生の皆さんらが企画運営した、「語りつぐ落語会 in 上市」が開催されました。落語家の古今亭志ん五さんが、不動明王を題材にした新作落語を地元の小学生たちに披露。地域への愛着を深めることを目指しました。

新作落語で文化財や 上市町をもっと魅力的に

続いて、志ん五さんによる落語の「しぐさ」についてのワークショップです。麵をすすめるような師匠のしぐさから、何を食べているか聞かれた子どもたちは、「ラーメン」「そうめん」「イケメン」などユーモアのある回答を次々と発表していきました。ちなみに「そうめん」という回答は上市町だからその回答と、志ん五さん。会場の子どもたちの楽しいやり取りにあたたかい時間が流れていきました。

人間っていいなあと思えた 上市町の人のやさしさ、思いやり。

人にやさしい会社にはユニークな歴史があった。
上市町には世界に誇る「ムヒ」をつくる池田模範堂がある



題名は『大岩の不動尊』

そしてトリは、新作落語『大岩の不動尊』のお披露目です。行基様と、眼病に効く伝説のある境内の藤水（ふじみず）が物語のベースです。



上市町のある目医者（めいしや）の診察室では視力検査を本物のシロエビやホタルイカ、大岩のそうめんを使った「富山式」で行うというユニークなお話。一方でその目医者はお金に目が眩んで患者が来ない。ある子どもが日石寺を訪ねると行基様が現れ、その子の先祖だと語り、行基様は不動明王を彫った経緯を話します。そこに、困った目医者がお

参りにやってきます。目医者はそれまでの自分を振り返り改心。お不動様のご利益で、やがて全国各地から患者が集まる名医となります。そこに診察を受けにきた親子。子どもに落ち着きがなく、母親は行儀を教えますと謝ります。すると目医者は「お母さん、行儀ではなく、行基のすばらしさを伝えてください」と、オチがつかしました。



と、日本各地をまわる落語家さんが重なりました。愛されるキャラクターである志ん五師匠は新作落語も得意にされていることから、今回、お願いしたので。日石寺のご住職は懐が深く、町の皆さんにも力を貸していただき、とてもいい空間になり、一緒にできて幸せでした。上市町の皆さんはやさしいですね。町には良き時代の日本の家並みが残る、戻ってきたような感覚になります。空気もきれいで癒されます」と語っていました。

志ん五さんも、「町の皆さんから、よかった、面白かったと声をかけてもらいほっとしましたねえ。お子さんたちにも助けてもらいました。

全国を回り愛された行基と、落語家の共通点から

鑑准教授は、様々な文化財を調べるうちに不動尊のことを知ったとか。「行基様が全国をまわり、人々に愛されていたということ

落語はまさに嘶家と客とが一体となり作るものだ実感。貴重な経験をした子どもたちが、大切な文化財をどんなふうにつないでいくのか。子ども向けの落語を作ったらかや、日石寺にまつわる新たな落語を創作してみたらどうかなど、おふたりにはいろいろなアイデアがあるよう。楽しい嘶は、まだまだ続きそうです。



人を大切にするやさしい社風

人気商品をつくる工場は24時間稼働かと思いきや、森部長に伺うと、「社員が健康に働くことが、いいものづくりにつながることから、勤務時間は朝8時半から夕方5時半まで。完全週休二日制は昭和50（1975）年から。人を大切にしたい社長の思いがあったのだと思います」。人の負担が大きいところは大きく設備投資して、自動化する。人にやさしい社風は、皆さんの会話からも伝わってきます。



「ムヒ」は無比から

他に比べようのないくらいによく効くと言う意味を持たせた商品名「ムヒ」。発売当時は漢字の商品名が多く、あえてカタカナにして、「これは何だ!？」と思わせたそう。広告的で優れたネーミングですよ。ただし、過去の商品やグッズなどの実物は社内にとんど残っていないため探しているそうです。

東京に米を運び始まった「ムヒ」広告の逸話

歴代ムヒのテレビCMでは、ムヒの効き目に匹敵する有名タレントを次々と起用。人気キャラクターを医薬品で初めてパッケージに採用するなど話題をつくり出してきました。初期にはこんなエピソードもあるそうです。「戦後、配置案だけではなく、ムヒの知名度を上げるため新聞の広告枠をもらおうと、嘉吉がリュックに米を入れて東京の広告代理店を訪ねたそう。その米で引き受けてくれたと言う逸話があります」と話す森部長。

以来、画期的な宣伝方法でムヒを広告。東海道線沿いなどに貼られたホロー看板は、社名は無しでムヒとだけ書かれた大胆なもの。ポスター、パンフレットなどの印刷物、ノベルティグッズ。夏の浜辺のビーチパラスル広告や、おしゃれなバスでの宣伝の様子など、今でも素敵だと思える広告ばかり。優れたマーケティングが行われ、ロゴも商品の進化に合わせ少しずつ変化しました。「当初は分不相応だったかもしれないですが」と語る大泉係長。それでも、いい商品をつくり続け、広告の力を信じて最大限に活かした結果がいまにつながっています。

かゆみ止め薬「ムヒ」は日本の夏の文化

皆さんご存知の「ムヒ」は、皮膚のかゆみ止め薬では日本のトップブランド。上市町で創業以来116年の歴史を誇る医薬品メーカーの池田模範堂（池田嘉津弘社長）が製造・販売しています。夏の虫刺されにはムヒという、日本の文化をつくってきたとも言える企業。しかも、「ムヒシリーズ」はすべて上市町でつくられているとか。改めてそのすごさをひも解いてみると、取締役経営推進部長の森俊浩さん、広報・社会貢献グループ係長の大泉郁代さん、同じく広報の五十嵐有里さんにお話を伺いました。



富山の売薬さんが始まり

まずは、歴史から。創業者である池田嘉市郎（かいちろう）さんは上市町生まれ。歴史がある富山売薬の流れをくみ、明治42（1909）年に家庭配置薬販売を始めます。呉服の販売に加え、長野、山形、静岡などで薬を販売していました。



写真提供：池田模範堂

社名は社会のお手本になる決意から名づけられた

嘉市郎さんの息子の嘉吉（かきち）さんは大正2（1913）年から売薬に従事。大正3（1914）年には、商号を池田模範堂と命名します。「社会のお手本となる会社になろう」という真摯な決意がこの名前に込められたとか。嘉吉さんはのちに池田模範堂の初代社長となります。

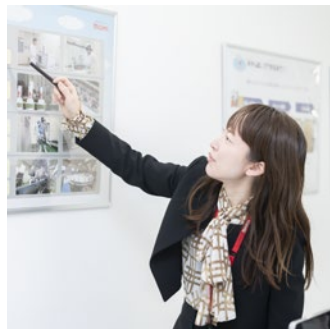
大正15（1926）年には缶容器入り「ムヒ」の製造を開始し、昭和6（1931）年には

チューブ入りの白いクリーム状のムヒを発売して爆発的ヒットに。2年後、3階建ての工場が完成。昭和32（1957）年には横法音寺に本社工場ができました。

多くの製品は上市町で製造 子どもの歓声が響く工場見学

そして、現在の工場を五十嵐さんに案内していただきました。本社・工場を含む全体の敷地面積は約7万㎡、東京ドーム1.5個分で、約280人が勤務。製造現場では「人にやさしい工場」をコンセプトに、負担をかけないよう作業の多くを自動化。「液体ムヒS」は1日約6万本を生産。国内向けや、台湾、香港、マカオ、マレーシア、シンガポール向けの製品もすべて製造されているそう。

上市町の小中学生の多くが見学を訪れ、社員が学校に向かう出前授業も行われています。



WANTED！探しています！昔の池田模範堂



☎
こちらまで
ご連絡ください
TEL076-472-1133
池田模範堂 本社代表
広報・社会貢献グループ
皆様のご連絡
お待ちしております



池田模範堂の古い製品やグッズなど、お持ちではありませんか？

池田模範堂の昔のグッズを毎日探しています。上市町の方はもちろん全国どちらの方でも大歓迎！蔵や物置の中で眠っている物も、古くて傷だらけの物も、私たちにとってはお宝かもしれません。製品だけでなく、広告などの紙類ほか、池田模範堂にまつわるものならなんでもOK！特に「缶容器に入った初代ムヒ」をお持ちの方、ぜひご一報ください！

取材を通して（編集後記）

今号では、アウトドアブランド「フェールラーベン」日本初の試みとなるトレッキングイベントや「日石寺」で行われた古今亭志ん五さんの「語りつく落語会」、いつもの景色“として見えている池田模範堂の「ムヒ」本社工場に訪れてきました。この3つの取材を通して感じたのは、どれも「日本の文化をつくり、楽しみ、繋ぎ、支えている」ということ。5年にわたり、上市町の魅力を見つける取材を行なってきましたが、今年も上市町の面白さ、素晴らしさを改めて感じられるものごとに出逢うことができました。日本が誇る文化の発信拠点は、上市町にあり。まだまだこの先も、魅力を見つける旅は続きそうです。

きっと、あなたも。

RE:DISCOVER
KAMIICHI



KAMIICHI
TOYAMA, JAPAN

発行：上市町観光協会

TEL/076-472-1515 WEB/kamiitabi.net

取材・文/辰巳 健太(REPORT1),タダカツ(REPORT2・3)

編集/居場 梓 撮影/利波由紀子 デザイン/GATHER AROUND